

FORMULA ERP

受注(SO), 購買(PO), 在庫(IC), 売掛(AR), 買掛(AP), 固定資産(FA), 一般会計(GL)、小切手管理(CQ)を有する機能性高いERPパッケージ。

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 1. 法令順守 | (タイ国税制、タイ商習慣をサポート、IFRS対応) |
| 2. 会計方針 | (会計処理の原則、手続きを実現) |
| 3. 快適な操作 | (早い操作スピード、ユーザーフレンドリーな操作性) |
| 4. 容易な入力機能 | (利用頻度の高い仕訳記帳などのパターン化と利用) |
| 5. 充実した帳票種類と設計機能 | (数百の帳票、約30の税務書類。容易な帳票設計と利用) |
| 6. 責任会計 | (多様な組織構造に対応) |
| 7. 活動基準原価計算 | (業務活動単位の原価計算) |
| 8. BOIプロジェクト管理 | (BOIやNON-BOI別損益管理 *組織コードを活用) |
| 9. 柔軟な決算処理 | (年度を越えた自由な伝票記帳や財務諸表、比較表の作成) |
| 10. リアルタイム更新 | (リアルタイムな原価計算、財務諸表への反映) |
| 11. 書類のトレーサビリティ | (ドリルダウンによる帳簿間の情報確認、伝票の履歴管理) |
| 12. 充実したセキュリティ機能 | (高度なユーザ認証と詳細な権限管理) |

共通機能

画面操作	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大量データでも快適な操作スピードを実現。 2. 容易な画面スクロール機能(画面の行・列を固定し、スクロールによりスクリーン全体を確認) 3. ドリルダウンによる画面、関連情報の容易な確認。 4. 繰り返し入力や原価配賦のテンプレートを作成。 5. 容易な言語選択。(Log on時に タイ語、英語を切り替えることが可能。)
データ管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 過去データを常時保管。(年度を越えた自由な分析、作表) 2. 容易なデータ転送。(インターネットを使った他場所間データ転送など) 3. スクリーン・レポート画面の印刷と各種ファイル(xls, pdfなど)へのエクスポート。
マスター管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 勘定科目一覧の容易な作成。(システムのサンプル活用) 2. 関係会社間で勘定科目体系を共有。個別も可能。 3. 勘定科目コードや勘定科目名、その他マスターデータの変更が容易。 4. 顧客、仕入先コードは、アルファベット、数字を用いて20桁のコードで設定可能。 5. 勘定科目コードは、アルファベット、数字を用いて最大11桁のコードで設定可能。
票管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. グラフィックモード、テキストモードの印刷を選択。 2. 会社ロゴをレポートヘッダーやすべての書類に印刷。
処理機能	<ol style="list-style-type: none"> 1. オンライン・バッチ処理の容易な選択。即座の伝票の更新、訂正。総勘定元帳への記帳は、オンライン(即時)、バッチ(定期的)を選択。 2. クライアント/サーバー技術活用による容易な操作性とマイクロソフトデスクトップエンジンとの協力的な互換性を有する。

債権管理 : ACCOUNT RECEIVABLE: CREDIT SYSTEM

1. 請求書、請求確認一覧 (Billing Slip)、領収書、貸方伝票など、各種書類を設計、作成することができる。
2. 期日を迎えた納品書一覧表の作成、及び顧客別に分けられた請求確認一覧 (Billing Slip) あるいは請求書を出力することができる。
3. 顧客別に分類して、期日を迎えたBilling Slipのリスト (一覧表) を作成することができる。
4. システムにて請求書を選択することにより自動的に請求確認一覧 (Billing Slip) を作成でき、用意に売掛金勘定を記帳できる。また、売掛金勘定に対する受入金額は、請求書上の全額あるいは一部金額とすることができる。
5. 一括支払いの場合は、最大で1,000の入金を受領することができる。送金、銀行間支払小切手 (為替手形 Bill of Exchange)、信用状、小切手、クーポンなどにおいても同様である。
6. 実際受取金額と差異のある支払を管理することができる。
7. 顧客別、顧客グループ別、支店、部門、課別など勘定の詳細や要約を分析することが可能である。
8. 勘定の年齢調べを期間を指定して行うことができる。
9. 外貨債務の集計表を出力することができる。
10. 部門や課別に年齢表 (残高表) を合計、詳細印刷することができる。
11. Debtor Cardを印刷可能である。
12. 為替損失の集計表作成ができる。
13. 収益を現金、小切手、受取利息、源泉徴収税、Discount Payment毎、期間毎に集計できる。
14. 日付、ナンバーにてDebt notification を訂正可能である。
15. 顧客別の債務残高を確認できる。

債務管理 (ACCOUNT PAYABLE: DEBTOR SYSTEM)

1. Billing Slipや領収書、借方伝票など、各種書類を設計、作成することができる。
2. 期日を迎えた商品受領通知の作成や仕入先ごとの請求確認一覧(Billing Slip)を印刷することができる。
3. 照合のために仕入先によってソートされている請求伝票を一覧表示できる。
4. 請求書を選択することにより買掛金を減ずることができ、また買掛金を減ずべき総額は、請求書金額の一部でも総額でもよい。
5. 一括支払いの場合は、最大で1,000の入金を受領することができる。送金、銀行間支払小切手 (為替手形 Bill of Exchange)、信用状、小切手、クーポンなどにおいても同様である。
6. 実際受取金額と差異のある支払を管理することができる。
7. 仕入先別に債務を分析できる。
8. 勘定の年齢調べを期間を指定して行うことができる。
9. 支払明細、源泉徴収表を作成と勘定記帳が同時に行われる。
10. 外貨債務の集計表を出力することができる
11. 部門や課別に年齢表 (残高表) を合計、詳細印刷することができる。
12. Creditor Cardが印刷可能である。
13. 為替損失の集計表作成ができる。
14. 支出を現金、小切手、受取利息、源泉徴収税、Discount Payment毎、期間毎に集計できる。
15. 仕入先の債務残高を確認できる

一般会計(総勘定元帳 Super GL: Accounting System)

<p>1. 仕訳記帳</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複合仕訳で勘定記帳ができ、同一伝票に勘定グループを構成できる。 2. 同一伝票から多様な伝票、書類を作成できる。(請求書、領収書源泉徴収税、払出伝票など) 3. 過去日付、先日付の伝票を入力できる。 4. 決算処理を実行していなければ、年度を越えて取引を記帳することができる。 5. 勘定の自動仕訳と総勘定元帳への自動記帳。 6. チェック、現金払出、現金預入などの銀行書類の入力が可能である。 7. 生産のための倉庫間商品移送、原材料払出伝票などを記録することができる。
<p>2. 残高確定/決算処理</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 会計年度を実体にあつたいかなる日程にも設定できる。 2. 確定処理は月次でも年次でも可能である。 3. 会計年度、暦年度別にレポートを作成できる。 4. 残高確定が終了していなくても、財務諸表を見ることができる。
<p>3. 付加価値税管理</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. すべての業種における付加価値税、源泉徴収税、投入税平均還付金など計算、印刷をサポート。 2. サービス業における期日前の売上税、仕入税をサポート。 3. 期日前の仕入税や売上税を自動的に計算する。TAX INVOICE受領後は、支払期日前税金から期日税金に自動的に計算する。 4. 自分の伝票を用いて源泉徴収票フォーム3、フォーム53を印刷することができる。 5. VAT税率を設定・変更することができ、それぞれの税率毎にレポートを分類することができる。 6. 買主が100%の投入税の還付を申し受け入れることができない場合にも、投入税の平均還付を再計算することができる。仕入先毎に投入税還付率を設定できる。 7. 顧客名と投入税証明の顧客名は異なることが可能である。 8. 税務署に応じて、還付可能または還付不能の投入税とに区別することが可能である。また利用者は、これらを同様に扱うか分けるかを選択することが可能である。 9. 自らの伝票を用いて投入税あるいは生産高税を印刷することができ、それ故、総勘定元帳において投入税と生産高税の比較が容易に行える。 10. 税務署に応じて投入税、売上税表を印刷可能であり、これらを支店別に分けることが可能である。
<p>4. 売上原価計算</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正確な原価計算(入力日付順は関係なく) 2. 実際原価計算は勿論、個別原価計算、総合原価計算(工程別原価計算)、複合製品原価計算ができる。 3. 未完成な受注オーダーの購買、販売書類の作成においても、売上原価が正しく再計算される。
<p>5. 原価償却費</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 原価償却費の自動計算と記帳ができる。
<p>6. 配賦処理</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 伝票を記帳すると同時に、原価配賦が実行される。残高確定を待たずに、配賦前の総合収支を認識し、予算と実績の比較収支を出力することができる。 2. 原価配賦の経費比率を定義することができる。 3. 入力内容を記録したり、指定された計算式を適用するしたりすると同時に、原価配賦が実行される。

<p>7. 在庫管理</p>	<p>1. 日々の在庫状況や繰越棚卸資産について、可能な限りの詳細情報を参照することができる。</p>
<p>8. セグメント管理</p>	<p>1. 大規模組織の複数階層で責任会計が実行できる。</p>
<p>9. プロジェクト管理</p>	<p>1. BOI、NON-BOIの管理ができる。 2. プロジェクト損益管理が可能である。</p>
<p>10. 予算管理</p>	<p>1. 効果的な予算管理は勿論、長期(期間無制限)プロジェクトの予算管理も可能である。 2. 予算は、割合かあるいは直接の数字にて設定できる。 3. 予算は部門単位までの明細で設定できる。 4. 一年以上のプロジェクト予算も管理でき、また過去に遡ってレポートを見ることができる。 5. 決算が締まっていない状態でも予算実績対比表を見ることが可能である。 6. 損益計算書、経費計算書など、課別・プロジェクト別に分類して分析・評価するための多くのレポートを活用できる。</p>
<p>11. 帳表機能</p>	<p>1. 財務諸表をユーザーが容易に設計できる。これを年次報告書、会社・部門別報告書、期間別報告書などに利用でき、さらにこれを利用して月別、四半期別、年次別、部門別などの比較を見ることができる。 2. 部門間の比較試算表や課別支出計算書など、経理情報の管理、分析を容易にする個別レポートを有する。 3. 受注申込書、受領書、源泉徴収書、製品移送書など多くの書類作成ができる。 4. 異なる会計年度や決算完了後でも、本支店間の連結財務諸表を見ることができる。 5. レポート印刷に際しては、日、週、月、年度別など自由に期間選択できる。 6. 会計報告や個別財務報告など、数百のレポートを利用可能である。</p>

小切手及び及び預金管理 (CHEQUE and DEPOSIT)

1. 現金預入、現金引出、銀行間送金、支払、銀行金利などを計上することができる。
2. 支払伝票が入力されると同時に、自動的に勘定が記帳される。
3. 銀行取引明細書に従い小切手が記録、更新される。
4. 銀行取引明細書の印刷が可能である。

5. 精度チェック、銀行照合を行う多様なレポートを活用できる。
6. 未払小切手明細を印刷可能である。
7. 先日付チェックが可能であり、受領か返却か未だ預入されていないかの状況を特定することが可能である。
8. 顧客別の不渡りチェック明細を印刷することが可能である。
9. Pay in slipを設計することができる。
10. チェックの受領、受け渡しが正しいかを確認するためのレポートを印刷できる。
11. 支払日別のチェックの明細を印刷可能である。
12. チェック期日別の受領、受け渡明細が印刷可能である。
13. 顧客別のチェック受領明細を印刷可能である。
14. 仕入先別のチェック支払明細が印刷可能である。
15. チェックナンバーあるいは支払ナンバー別の分類された支払チェック明細を印刷可能である。

固定資産管理 (FIXED ASSET SYSTEM)

1. 固定資産システムと総勘定システムは連携しており、固定資産勘定は自動的に総勘定元帳に記帳される。
2. 減価償却費計算は、定額法並びに定率法の両方を用いることができる。
3. 減価償却費計算において、月次減価償却費の少数は繰り上げ処理される。結果として、減価償却費を集計するとき、この数字は確実に年次減価償却費と合致する。
4. 減価償却費は、日々計算される。
5. 修理履歴が記録でき、減価償却費計算においては、この修理費を含め計算することが可能である。
6. 減価償却費は、現在資産を利用している組織毎に計算することができる。

販売管理 (SALES ORDER: SALES SYSTEM)

<p>1. 受注処理</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 販売注文書、Invoice/Tax Invoice、現金出納など多様な書類を作成することができる。 2. 経理部門の期首残高あるいは前期繰越残高を待たずに、製品販売を行える。 3. 値引きに関しては、各個別品目あるいは合計金額から、実額あるいは割合で値引きすることが可能である。 4. 在庫数量単位として、同時に二つの単位を利用することができる。また、例えば、鉄棒3本、重量22キログラムなど単位数量は無制限である。 5. セット、ロット単位に製品を販売可能である。 6. 顧客からの販売注文なしで製品を販売することができる。 7. 価格政策や値引き政策を設定することができる。 8. 外貨通貨を無制限にサポートしている。 9. 販売注文を入力すると同時に、即座に顧客マスターや製品マスターに追加することができる。 10. 販売注文書並びに請求書に製品の連番を定義することができる。
<p>2. 税/勘定処理</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外税、内税、税額控除などの付加価値税の計算をサポートしている。 2. 付加価値性7%、10%や累進課税1.5%あるいは税額控除などの必要なビジネスをサポートしている。 3. 販売請求書を入力すると、売掛金の増加、在庫の減少、生産高税に関する情報収集などが処理される。また、自動的に販売統計の記録や勘定仕訳を行う。ユーザーは即座に販売統計や記帳された勘定を確認することができる。 4. 販売請求時における現金、小切手、現金送金、クレジットカードの預入金を記録することができる。
<p>3. 与信管理</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 信用限度を超過した購入者に販売するかどうかの承認機能がある。また、承認権限者を設定することができる。
<p>4. 帳票/分析</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 郵便用の住所ラベルを印刷できる。印刷に際しては、ラベルの行数を指定できる。 2. 今後の出荷に対して、未確定注文の一覧表。 3. 税務署に準じた売上付加価値税 (Input TAX) レポート。 4. 売上付加価値税、期日売上税や期日待ち売上税) に関するレポート。 5. 合計現金売上、合計信用売上、合計売上(現金、信用 x xなどを製品別、顧客別、セールスマンや販売地域別に印刷。 6. 顧客別、製品別、製品グループ別の販売レポート。 7. 顧客ごとに分類された月別、四半期別、年別に比較売上集計。 8. 利益幅金額、利益幅率、売上金額や合計売上金額で順位付けした増分法、減分法の両方で売上を分類することができる。 9. 配達受領書やセールスマン別に分類された手数料を印刷。 10. セールsteam、セールスマン別に分類した配達受領書。 11. セールスマン別に分類した受領書や手数料を印刷。 12. セールスマン別に分類した月別の比較販売レポート。 13. セールスマン別製品別売上、利益集計表。 14. 支店別に日別、月別の合計現金売上、信用売上のレポート。 15. 製品別に概算コストと利益幅を印刷することができる。製品借用通知や製品返却通知を記録することができる。

購買管理 (PURCHASING ORDER: PURCHASING SYSTEM)

1. 仕入処理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 購買注文書、Invoice/Tax Invoice、現金出納など多様な書類を作成することができる。 2. 未確定発注レポートを作成できる。 3. 税務署に対応したVATレポートを作成できる。 4. 仕入先別、製品別の購買レポートを作成できる。 5. 仕入先別の買取価格を集計できる。 6. 購買注文を入力すると同時に、即座に仕入先マスターや製品マスターに追加することができる。 7. 購買注文書並びに仕入請求書に製品の連番を定義することができる。
2. 税/勘定処理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外税、内税、税額控除などの付加価値税の計算をサポートしている。 2. 付加価値性7%、10%や累進課税1.5%あるいは税額控除などの必要なビジネスをサポートしている。 3. 購買注文を入力すると、買掛金の増加、在庫の増加、投入税に関する情報収集などが処理される。また、自動的に販売統計の記録や勘定仕訳を行う。ユーザーは追って、仕入統計や記帳された勘定を確認することができる。

在庫管理 (INVENTORY CONTROL: INVENTORY SYSTEM)

1. ロットやシリアルナンバーを特定して、加重平均、先入先出の14タイプで原価計算ができる。
2. 個別品目を製品セットとして扱うことができる。製品セットを販売すると、同時に個別品目の在庫が減量される。併せて、販売注文書を発行するときに、この製品セットの品目の組み合わせを変更することができる。
3. 再発注点や安全在庫点に達したことを知らせる製品レポートを作成できる。
4. ロット単位あるいはシリアルナンバー単位に製品を販売できる。
5. 製品移動をモニターするための製品状況を印刷することができる。
6. 販売も移動もない製品を印刷、把握することができる。
7. 再発注点を迎えた製品を印刷、把握することができる。
8. 未出荷あるいは据え置きになっている製品を製品別あるいは期日指定別に印刷、把握できる。
9. 価格リストを印刷可能である。
10. 繰越残高確定を待たずとも現行の取引を即座に記帳でき、ユーザーは追って繰越残高を記帳することができる。また、加重平均または先入先出にて完成品原価の計算が可能である。
11. 倉庫・支店別、加重平均または先入先出別に製品コスト、材料コストを把握できる。
12. 製品払出伝票、supplied issue slip, material return slip, supplied return slip, good received note and etcなど多様な書類を作成できる。
13. set stock counting unit.
14. 部門別倉庫別に原材料、供給量を把握できる。
15. 課別に原材料、供給量を指導することができる。